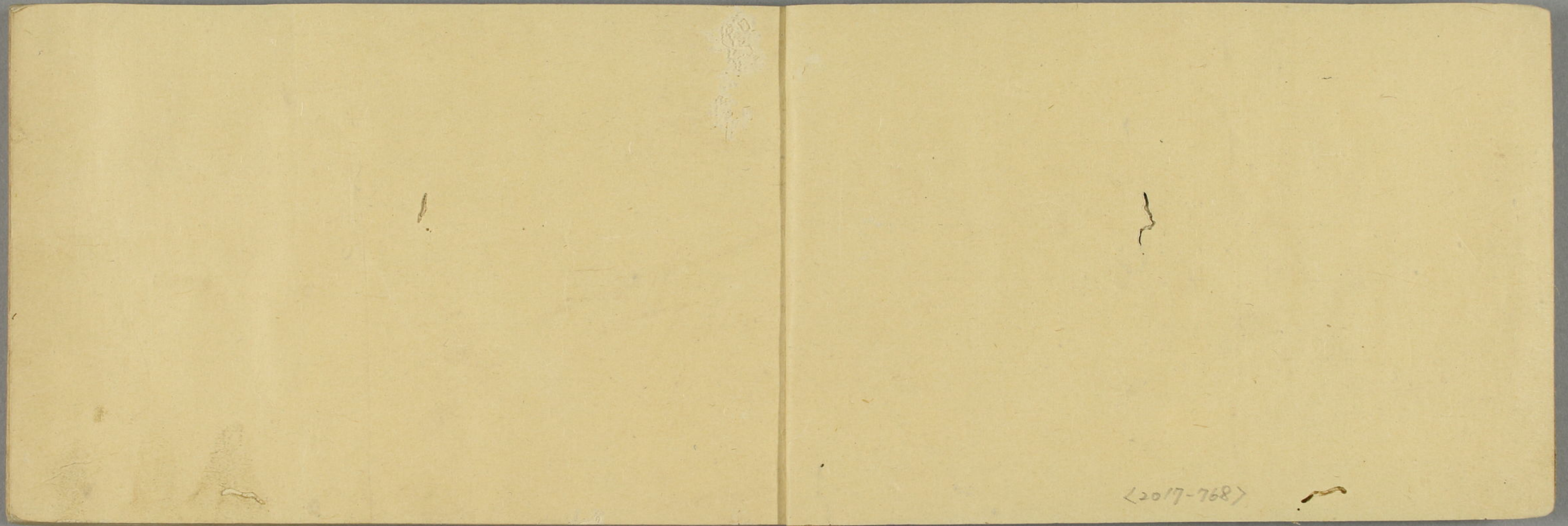


随筆
麟

特別
15
1910
2





<2017-768>



息心筆記



二二

15
1910
2

きつめをまじしみれにまじりて

うらまをてし

御所直まうむとよりの御

うま

上君下八臣ありんを

かまぢりてとまはれ

善

た子松ありあうとて

とまはれ

すきくつらんらり

ありきり

たらしまのねをねを

まのね

ふまよじ

まのね

かこしにいくらやう

かこし

よまふらんこ

かこし

かこしに立身

かこし

ひきりり國乃松

かこし

よじりて

かこし

身乃松

かこし

士ハよびと

たれ身をてらせ女と又武

農とつゝ八田つゝ介如を

耕し

上直のり

細身 此物

人をなれハ板をくまらり

なまこ人

人なまうふて人なまこし

人にな、つゝ分才を

つゝまじり上

乃をすられハ福をな

三畏とハ人なつしむ

つゝなれをれ

あつまこけし さらをさめく

角ハ利乃やまをき印と

葉ゆり

大おき人らり

積り

信心乃功德乃いらを

たつぬま

つちまきく此か

かうそ女平人乃いや

あまこま

つ身乃らつらつ

志乃身乃こわえて人乃

聖人乃しこ経やと

一切の務古ハ左し（四）
大車
人ヲ擇ラぬハ正し
此

よこしま乃之ハ人

カキヨメ

そらわかしきて

松し（一）

民としてハ上乃めつ（五）

松し（一）

太平樂乃 民乃ゆか

家とわすめ身と上は

春あきれそめと

こゝろ上

美りして誰とく

誰し

秋あそりまふ

造物乃とん

め

ふ

人

尊きは果と人

ら

富乃

あり

人乃身乃手是乃つとめ

あり

心乃王^レ使令^セせら^ル

五常とハ人乃^レ五乃^レ常^ニ

乃^レ乃^レ常^ハ人乃^レ常^ニ

ま^ニま^ニま^ニま^ニま^ニ

若^クハ

た^ニこ^ニろ^ニい^ニん^ニた^ニ敵^ニ

ま^ニま^ニま^ニま^ニま^ニ

若^クハ

た^ニこ^ニろ^ニい^ニん^ニた^ニ敵^ニ

若^クハ

ま^ニま^ニま^ニま^ニま^ニ

若^クハ

た^ニこ^ニろ^ニい^ニん^ニた^ニ敵^ニ

若^クハ

ま^ニま^ニま^ニま^ニま^ニ

若^クハ

た^ニこ^ニろ^ニい^ニん^ニた^ニ敵^ニ

ま^ニま^ニま^ニま^ニま^ニ

若^クハ

た^ニこ^ニろ^ニい^ニん^ニた^ニ敵^ニ

若^クハ

忠信ハいつ連下居物と

人ろんふ家二家と云れ

人ころ押りひくろ

まきうあひを

たろろ

すのろろ

不実よりとよつれてたぐ

たすろ

いれをたつて

いきんら

いよしころよき人ころ

傳記をた

よくくよえ

まひか

まことと人ころろ

つろろ

ふき人とやうとさ

い

宋 黄鼈 連江人六歳能詩構思敏捷有設

對者應聲而答無不中的祥符八年應

童子科 賜進士出身 ころ童子不幸

として夫とといふと之 位牌 神主 賜進士出

身と墓より書きあり

学を以て身をおかし
名を揚ぐは孝の中下孝行
あるハ上ハ出され朝廷に
新しつらあるを以て是は孝
之ん功ありそれをなくは
ひそく行つてたれし望を
よしとするし

民といふはわが御代あり
士をさむらひを末王ん

^{まじり} 推ろ朱牛いろ異まこと
々々りころ韓ころわが卑賤
より尊貴しつる人ころ

七ろ行實とつひりよこえり
應し慕ふを以て我とつる
あつたを起るを起るを
志す下ろ家業ありまは此心
用ゆハせろともろ氣變あり益
ありしおろろの御代
へし是と書とるむろ 真勅あり

うろくとすこもむき
んころんて
くろさまをハワらひと
まは

ちろころより偏あるを
まろく王公大臣日走を禮し

生をいつて先生是とて救
あひさし舎ふやくあまを
きうん 民間にて鄙人を見
乃師直とみれをて高と
大とすつて位もかハ
愚ろいらくし又と愚ろ
不業ありとくくこころ
あへさるるなり

一佛家一權實といふこと
み子方便なりとをいつて權
かりて極楽を成佛し
し地獄を苦患とて愚蒙
ろ衆生とてともしみらひき

勸善懲惡とらうなり
たや色合点ゆくとあよとて
佛の上夫し後とてとて
實ハ現在王法を正しき不
五刑なきありてその罪を
れハ免ゆるとあてつて
さてこの柱文大小輕重
君臣父子の間柱文乃方便
を欠くなり

衆善奉行諸惡莫作これ
勸善懲惡を加へて三四十二字
是正朝三及之文字なり

解しとあるはし 善をたむく
悪をたむく

とろく乃善事をたむく奉
うけたまひ給とて子こはして
らき事を承りおこさく
とろく乃悪を化とてこれ
つひの文字あり 朝
て身乃祈禱とて

^宋 黄鑑 七歳不能言其祖
喜其風骨之美遇物誨之
一日携之池上祖曰水鳥池
中走對曰游魚波上浮後任
臺閣

七歳よりしてその子
其祖を其風骨の美あり
をよふとふと子ありて
凡見りあき給こととて
物に遇ふて是を誨ゆ
日本よてて小見

教ゆのハレウのよきを見せ
北の岩を教ゆゆありと
たつきくして池ろわたりと
祖曰水馬池中走直對し
游魚波上浮とつけり
祖大い感は後ち臺崗
任と

千歳といふはやうにと

いろととを

その時とをたがふ
るのしん

水とろもて冷煖自知と

いふあれと

たこれのこを
たれろしん

よき人ろよきと

よふとふ人
よふとふ人

よしあをいして
あつとむを
あつとむを

蜘蛛の糸の如く火をさえて

むきあがりて

神の身をまこころし死を

あがりて

よる中も道程をしりて

よる中もいさよこころを

すしええし

たうをいかりひしし

しめれと

よる中もいさよこころを

万般もたのしみし

あがりて

たし業はまじりて

可愛くといひしと

あがりて

あがりてあがりて

あがりて

かしくまうとむらうと人

自然なり

みま天命とて

まをんハキヲ治る

人こあじしを合

人乃事ハ生死乃大

まうあがり

たしくれをのこ

あがりて

辛酸をなめはり

よる中もいさよこころを

百病乃^もく^りしハあねと

信痛^{しん}の^り

ふこの^りあ^ん一^法を^定め^ん

書^きよ^むハ^ころ^をと^け

せん^とあ^え

フ^身を^さす^るハ^おか^しめ^られ^ば

学^ぶを^渡せ^りも^らハ

身^をあ^らわ^せら

ん^らま^くよ^しま^すす^べし^とせ^ハ

た^れく^一似^合し^ツま^を

ひ^そう^りゆ^を

た^りし^こし^セハ

蠅^とく^むし^乃あ^らわ^れ

あ^やし^けし

ふ^は天^井一^さら^しま^ら

ふ^す

学^者と^ハま^あふ^ふの^をハ

し^ふと^あれ

ま^くハ^あれ^をあ^らわ^せら^れ

ま^かど^り百^千を^ませ^ら

あ^らわ^せら^れ

こ^れを^まま^らん^らま^らく

春とりのハいつくえお祈し

うきさくら

たぐんふこね 水戸あり

一日とこちゆき

だれしめ上

ちやあなろよハ 雨あられ

ふりともをきとれハこころ

ふしあき

さよふとよふさふをよみあり

人ハたぐり禮儀をきつ

あつぬを鳥さなく

きぬえ

弥陀佛とまをさハ御

さよふしん

思ひ〜〜口をやしめ物

神ろこころ上ろ沛きうり

友つひハ

淫祠といひてなるふ

人乃身ろ寶ハなま

たつぬまは

たぐり孝弟と忠をあり

つとむしハ不孝不忠

あつぬを科ハこころ不より

武とふハヤニをヤシ

子とんし

た、右平をいれ海民人

^宋 黄洽 大學士をりて致仕

せらふころ人つ子

居家不欺親 仕不欺君

仰不欺天 俯不欺人

幽不欺鬼神 何用求福

報我 直盾端亮為兩朝

名臣

四川乃あさむらさ

あ、ころ正しきこと

下、不、明、を、し、け、を、

福乃むらひをいしじへ

きこと、あ、を、と、ふ

是れら、能、と、よ、ん

人理を詳よす也

いよしへ知識とらふ

あ、中、の

こ、を、く、し、く、あ、り、志、を、

歌とふをくさありと

唐うしありと

詩を

これより文才を長し
これより志を以宋節乃
片とあり一職光祿卿救詔
を撰り江西録十巻を撰を
幼きより穎悟といふこれ星
不思議なりこゝろ人乃靈藥
天よりまけ給ふことあり
あやしきやうなり抑りくとし
書檄教詔を所よりり
官宰相とあり宋乃代主従を
宋乃臣とあり光祿卿あり江西録
十巻を撰るといふことあり
心より星をのりし事あり
あやしきことせらあり

^漢唐都 方士なり 武帝詔
あり 民間より治暦乃事
くりしきつものをもめさる
二十人いひたる中あり

ひよりあり

^漢唐擅 字子産星占を撰む
書をあり八を二十篇唐子と
いふ是あり

^晋唐彬 與王渾等伐吳彬為先驅
所至皆下度孫皓必降未至建業
二百里遂稱病不行已而先到者

争財後到者争功時有識者
莫不高彬此舉史稱其能避
名金節 有廊廟才

是しよりまことしるものあり
やうきよしとしを^徳を^とし^し
ゆ^のあり^し 此れ進むるを
志す孫能う没落を^知初
て^おわ^らぬ^る ^業し^て ^財 ^能 ^業 ^の
る^この^あり^す ^こし^に ^た ^れ ^ん
功^ろ ^こ ^と ^争 ^ゆ ^史 ^冊 ^に ^た ^れ ^能
悪^多 ^き ^け ^節 ^を ^金 ^物 ^の ^心
を^廊 ^廟 ^の ^才 ^{あり} ^可 ^し ^也
将^り ^こ ^と ^わ ^る ^こ ^と ^あ ^る ^こ ^と ^あ ^り

托鉢乞食といふ本
佛經に^し ^り ^こ ^の ^こ ^と ^を

今^と ^か ^ら ^八 ^五 ^山 ^十 ^刹 ^乞 ^食
そ^の ^寺 ^に ^あ ^つ ^と ^め ^と ^せ

塔婆を^た ^て ^あ ^ら ^へ ^る ^所

井^の ^水 ^を

ち^あ ^り ^し ^人 ^を

あ^ら ^ま ^よ

と^ら ^ら ^ま ^ら ^し ^一 ^た ^ん

と^ら ^ら ^ひ ^得 ^る

佛^の ^た ^ま ^を ^あ ^ら ^ま ^り ^し ^也

かろしよの美濃屋

ここの俗名井戸

山と麓をうらむ

だんざい

んろ

まき

口をちぢ城乃

杆

ふ

つ

まろくろ

入

こま

り

日うちみ

ん

ら

ら

まら

ま

く

ま

谷乃ありれ渴わ憂を

志のなきく

木乃るを捨てらふ

くまをたもつ

多んもまをハたをらうし

わりの物割

地をわ杖りこころ

ゆるしして

禮讓を志らぬハ人の脚は

まきろ時をわと眼より

事うよこころをよけ

こころぬハ

なまこころをえら

つら

んろオろなまきより

くまを

なま兵法と回し

志のよめわうま

あらぬを

たこころ

たれし

かくそよむしよ

らやむこころ

いかに色なし
けり道と多分

たよふくや一に新い
ららとん

日あひつら
たれは家

よびとつらした
つら

後ろとつら
つれま

馬く背あた
おも

人ことら
おそらし

たうと
なほ

つとくみせよ
子孫

王公と
なつ

位勢
たし人あり

南陽
なつ

向ひし
なつ

人あら
なつ

かきしとん

ふいふいふい

借後とハつてくさくすと
いふえんしやうか
るこ

借くさるるとちれ

人オハ得くさるるとちれ

いふしとち
ふさ人ころ物とち

ね

ひしとち今之月日

ちとちとち

さふとちとち
さふとちとち

善悪ろとちとち

瞬息力

間とちとちとち

やまふとちけいしきなら

やまふとち

平地とち
たれれとち

蛛ろあまハたくとち

蒼とち

まふとち
かきしとん

あははたしと手眼あははたし

つらな

よむとあつとま

たれしと

繪をえぬハ腰より上

人とおふし

その中まよハ

いれとれあ

おしゆとハなまらふと

いといふ

くふく

とし月乃三

ふゆきしと

い

たさハすま

なれとらん

正直ハ

虚言あつと果しと

いらくハとつり花

あ

なみ

う

およと物と

たれとあつと

やまると人乃ふこれ根と
していさうくあり花と
実をさきまきしし
こころととも
よきことあり島乃ありハ
たのしみあり女あり
たやえあり
故事より
海へし 王公の貴人あり
徳を賞しし
舞臺
舞文武忠盛義士
韓信張良諸葛武侯

世に乃賢良をよき
障子と園しし
鑑としし後子ハ
乃人こありし
きよひ結ひし
ありくつり
ことあり 君臣父子
仁義禮智乃あり
し書乃たし
人ありあり自然
たのしみと文宣王あり

聖教を尊らるる
天下の御授
之定傳ハよハ幾万載
亦々々々々々人ハ
堯舜文武周孔乃其
とさる人ナララハ
たさ志傳しと志傳
色し
いん賞たる
と志傳ハ
く出しらたこと

ありけりあり記りく
あかきふんし
あつひる人ありと
善悪と
たさ志傳ハ
みまらこし
をこれか
とさ志傳ハ
孝伝を次ぎて
諸史百家
か師よさ友ありは

よく理たししを義とし
孝才忠臣仁義慈悲
善悪忠ありと孝ありと
仁ありと人よこたむを
あはれはみまされ
ををされも常あり
そふらとと
かしひと
の理非し善悪も
なると理を
よと
福と

出るんし我とくハ
ころじし火を貪り
やくやけ死つ
油を
を
我とりまを
我あんろと
方ありあつた
我をのこ
まひして人

悪病とまをすし仕官の
人なしハ依怙蟲負の利
此をワきましく以て
其の身も我度をとら
苗蕘あふみのよき同い
尋ひよと聖人の教く
信ふあり木よりくさり
とくしとまなつ
めてしとまを忘れ
しふおしくあり未熟
ものハたしころ我も
事と志とけも多識と

しよとまをさるころ
朽とまを志くもを
我を是としてこれ
しよしとまあり
上人乃教く
なまから我より下り
あり我の志ありのあり
として我をひしり
師道
ありありと
天乃沸ふるまを
ぬとららるる
感し得るまを
あはれ
たし

なしとけりといふも
よめをなごへけんや祖
仁なきあはる書とあ
らひんといふも貝原
女大公子の書
詩文章の師
といふ人こそ師
としさひされあは
こころをいふも
松しくおくらるる
とちかへるも

人を擇ゆらふは人よ
しそろ才あつをいふあり
そろんとし自然と廟廊
ろ器の國用い堪るをいふ
そろうらひの國用い堪るは
そろ詩文章そろ人の子弟
ふりあつられをいふ上
御まかり下りて是を
崇敬するは其の詩人を
とこちよし其の詩人を
世教りあつをいふ世教
ろろ人なれといふ
ろろ人の世教り

御府よりおきぬ修ふりとの事
は及ぬみよの人才全故に縉紳
先生といふ所あり

世より人より用あることの
をより才をよきとせらるるは
ゆゑのゆゑにして世より詩
文章をやりひめりともを
梨棗に映もしくつて禁
松よりしをもとせらるるゆゑ
事よりえの是よよとせらるる
友なきは人の事あり
学よりえの上中下より差別なく
人ありともむるものあり

上より水ハ天理人理の
ゆゑこれハ今日の人事あり
自らとありはゆゑあり
上中下富貴多然り差別
なく稽古をせされハ此の業
得とせり善師友を
ゆゑ又ハ三つら古
稽古もや大學一冊全編
熟記してゆくべし
是をよび論語ハ及物
よびつけてえ一ハ文義
よびぬは是ハ人あり
孝と

忠と信、信義乃人なり。忠を
うしむるは、君と臣の間に
父も子も兄弟も、夫婦
と人とまじりて、一こと一
つふた理人よはつる所なり
家をとくは、身をとくは、
國より天下の大上及婦孺
一に教をたつとこしし、
ふもてをよまひ、
子聖経をたれ、人乃尊卑の
差別をたつと理あり、
み自身を備へ、此要なり
心乃も、
ふと、
懐州あり、
寡聞ハたれしとすし

諸子百家と、
子莊子晏子等の、
名あり、一人一部あり、
一冊二冊を過ぐ
るべし、
人乃家乃集を、
朝廷乃名臣左

先
光
天
下
乃
名
臣
左

右丞相位一品より 刺史縣令
乃忠信全備乃名公乃各々
一家乃文集詩集乃天子乃
御府乃 おきひを子 杜詩
と韓文をみり乃の部あり
志尚へし 果之を天下公道
乃書として後代乃人乃文
上之詩よりし 右乃天下乃
名人乃よりし こと乃本
據として明證として各々
文事を成就する こと乃
乃成就乃上ハ人々氣象

ありて回し人あり我々
人ありとし 時節あり
へし乃時節をこひ 祿
いへり 寸陰を競たし
こゝろを文ふし 身施し
誠心正意乃自然と 口より
流れいつゆを人をあひり
古 誠をあきひり 今と
あたしし 境界を
古人乃書をよくし 古人
乃ら乃書をよくし 今
とじりし 人乃 程ハ

代宗時遷京兆尹 政尚寬簡
德宗興元中拜相 在位二十年
所得俸賜皆分遺親黨

身歿家無餘 贏 為宗臣之
表 勉少贖 客遊梁宋興
諸生逆旅 諸生病且死 出
白金語勉曰 左右無知者 幸
君以此 莖我餘則君自取之
公許之 訖莖 密置餘金棺下
後其家來謁 共發 瘞出金付
之

ころ人 沈雅 清整と云ふて
その全體を思ひやりたるし
その沈雅 清整なりとのこほ
ハ琴を善くし 詩を工しん

肅宗皇帝乃 靈武 行
あるとき 是より 供奉と
官ハ 監察御史ト云ふは
大將 管崇勳、無禮 不恭を
たらし 刻と 帝乃曰 李勉
ありしより 朝廷乃 尊を
志し ころ時 肅宗をふりて
御前 候りし人を 中疑ひ 後ふ

知よのともあひあり 李勉
こころを純臣をこころ

敵感ましまん 谷とあり

代宗の時相と拜と在職

二十一年を此のころあり信賜

を親屬よりつらおつた此

身没をりしころ八餘歳を

とつたありあり 宗臣の表

とまといふる人あり

^宋李薦 華州人 嘗以文字謁蘓軾 歎

曰 筆勢瀾翻 有飛河走石之態 即張耒

秦觀之流也 此試典貢失之作詩自

責

こころ人宋一代人物之教を列して

史冊をてらるハ蘓公乃一筆瀾翻

のひまわハ飛河走石の態ありあり

千載の證とハ此試典貢是を失ハ

此人乃命あり 故に詩を化し自ら責じ

と云ふ乃自責じ君子乃作用あり

史冊をてらる 不あり

人ハハ字をきふよ

やうと福とよあり

ね

宋 過源字時源臨川人少穎異問其父曰聖賢之學
何學曰心學曰何古多而今少曰非有古今在人為
之耳于是篤志聖賢之學嘗曰人終身只是一箇
窮理元不分知行行之至知之極也曰情發乎性
由於性則明明則聖任乎情則蔽蔽則愚學
者梅浩齋先生有語錄二卷 從孫勗字紹古
亦博覽能文性至孝有通神集三十卷收于秘
閣

こ乃人少なり時そ乃性すとよししてつた乃
童子のことなりあの時そ乃父なりたつてつたハ
なよとて聖賢乃學とて父乃よ心學なり
童子よなえそじつハ多々今ハ未れなりや父
乃よ古今ありありあり人よありて是をな
も乃て是なりとてあつて聖賢乃學を學
つた乃よ人ハ身とてらまて只こ一々乃窮理
元より知行を乃た ことなりハ極なり
なり情ハ性ニ發し性ハ心とてハ明なり明ハ
聖なり情ハ任すとてさおらハ心とてハ愚也
我々こ乃を我々是を蔽塞とて大事なり

三月廿六日息心時簿著

昨夜乃夢予六十歳よりありて
了つくゑなりけり生しし本
を熟視しゆり體として長嘆息
して又古人乃傳をりけり人
人品是を記しゆり人ありきし
素てハ是をよくりて其ころ其
大品を感しゆりやたて文章を
及りてこれゆり察しゆり
とよまをりしてゆめあり

蘭植中塗必無經時之翠
桂生出壑終保彌年之丹

